



ねらい

- ①地震や津波が発生するときの危険を予測して、危険を回避できる能力を育てる。
- ②日常生活において自らの安全を守るために主体的に行動できる態度を養う。

↓ 5年 p26 ~ 29 [地震や津波から身を守る!]

地震や津波から身を守る!

日本は、「地震列島」と言われるほど地震が多く発生します。地震から身を守るためには、日ごろからのそなえと、地震が発生したときの行動が大切です。

地震から身を守る!



ゆれを感じたり、「緊急地震速報」を見たり聞いたりしたときには、危険を予測し、正しい判断をして、テーブルの下など、物が落ちてこない、たおれてこない、移動してこないところに避難します(安全な行動)。



危険をいくつ見つけれられるかな?

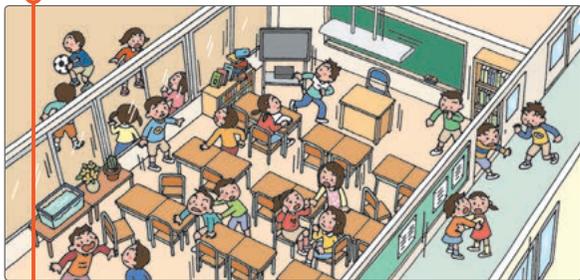
①危険の予測 ↓ (正しい判断)

②安全な行動 ↓ テーブルの下に入る。

学んだこと

あてはめよう

学校で地震が起きたときの「危険の予測」をして、けがをしない「安全な行動」のしかたを考えてみましょう。



危険の予測

安全な行動

26

1 安全な行動のしかたの基礎・基本を身につけます。

2 安全な行動のしかたを、学校で地震が起きたときにあてはめて考えます。

3 いろいろな場所で地震が起きたときの安全な行動のしかたをおさえます。

4 ミニ知識も充実「緊急地震速報」と「身の安全の守り方」。



地震は、いつ・どこで起きるかわかりません。ここで起きたらどう日ごろから、「安全な行動のしかた」を考えておくことが大切です。

通学路では



- ・たおれてくるへいに注意。
- ・かんばんやガラスの落下に注意。

電車・バスでは



・つかみや手すりに、し

人がたくさんいる施設では



- ・たおれてくるものに注意。
- ・係の人の指示にしたがう。
- ・あわてて出口に走らない。

エレベーターに乗って



みんなの通学路でも「危険の予測」をして、「安全な行動」のしかたを考えてみよう。

海の近くでは津波が心配! 津波から身を守る方法は、28ページを見てね。

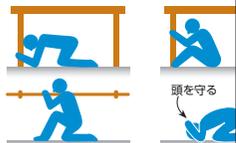
緊急地震速報

緊急地震速報は、数秒から数十秒後に、強いゆれがくることを知らせるための警報です。数秒から数十秒後と短い間ですが、この間に身の安全を守るようにします。



身の安全の守り方

- テーブルなどのあしをつかんで、体を安定させる
- 手すりなどがあるときには、手すりにつかむ
- 手すりがないときは、ひじとひざをつき、



地震が起きたときに火を使っていたら、無理に消そうとしないでゆれがおさまってから火を消します。あわてて消そうとすると、やけどをすることがあります。

保健学習と防災教育

小学校の保健学習では防災教育を、5年「けがの防止」単元の「身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止」の発展学習として指導することができます。

5 津波からの身の安全の守り方と率先避難者になることの大切さをおさえます。

6 津波以外の二次災害、土砂崩れや火災の危険について学びます。

7 地震や津波などの災害に備える地域での安全な環境づくりについて学びます。

8 「ファミリーチェック」で、地震に対する安全対策を促します。

津波から身を守る!

日本は海に囲まれているため、地震が起きたときには、津波に注意しなくてはなりません。

つかむ 海に近い地域で地震が起きたり、津波警報が出されたりしたら、高いところなどの安全な場所へすぐに避難します。



率先避難者になる!

「率先避難者」とは、海に近いところで地震が起きたら、津波がくることを想定して真っ先に避難する人のことをいいます。ひとりひとりが自ら進んで避難する「率先避難者」になることで、まわりの人もつられて避難し、多くの人の命を助けることができます。



土砂くずれや火災にも注意!

地震が発生すると、津波だけではなく、山では土砂くずれが発生することがあります。また、住宅地などでは、大きな火災が発生することもあります。そのため、ゆれがおさまったら注意して安全な場所に避難することが大切です。



宮城県北部地震 (2003年) 地震で起きた土砂くずれ

阪神・淡路大震災 (1995年) 建物がたおれ、火災も発生

地震や津波などの災害にそなえる地域での安全な環境づくり

神奈川県横浜市のおもな取り組みから

避難場所を示す案内板 家の近くにある避難場所を家族で確認しておきましょう。



全国にある避難場所には、このマークがついていることが多い。



避難場所であることを示すマーク

防災訓練



津波避難情報板



海抜標示

●津波避難情報板
市民や観光客が多く集まる場所に、津波避難施設などを知らせる津波避難情報板を市内6か所に設置しています。

●海抜標示
津波にそなえて、「より早く、より高い場所への避難」をうながすために、海に近いところの市内約7,700か所で海抜標示をしています。

防災公園のかまどベンチ



わたしたちの地域では、どのようなふうやそなえをしているか、調べてみましょう。

防災倉庫



ファミリーチェック

家庭における地震のそなえ
おうちの人とチェックしてみましょう。

- 家具がたおれたり、移動したりしにくいふうをしている。
- 家具がたおれても避難できる配置をしている。
- ガラス戸にガラスが飛び散らないフィルムをはっている。
- 避難場所を家族で決めている。
- 地域の危険な場所を確認している(道路、川、池、海岸など)。
- 非常持ち出しぶろろや3日分の食料・飲料水などを用意している。
- 地域の防災訓練に参加したことがある。
- 災害用伝言ダイヤルの使い方を確認している。

待ち合わせる避難場所は、この公園ね!

